

平成28年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1472602711	事業の開始年月日	平成17年2月1日
		指定年月日	平成17年2月1日
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	相模原ケアハートガーデン グループホーム あじさい		
所在地	( 252-0203 ) 神奈川県相模原市中央区東淵野辺 1-22-14		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
	<input type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名
		ユニット数	2 ユニット
自己評価作成日		評価結果 市町村受理日	平成29年6月23日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員は理念を常に意識し理念を基に日々、カンファレンスで入居者様のケアを話し合い、健やかで快適に過ごせるように実践に努めている。入居者様の誕生日に個別ケアを実施して本人の希望を叶えられる様に支援しています。職員が入居者様に楽しんで頂ける様に、行事を計画しています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	平成29年3月27日	評価機関 評価決定日	平成29年6月6日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

**【事業所の概要】**  
この事業所は、JR横浜線古淵駅から徒歩約15分、バスを利用して竜像寺入口バス停より徒歩3分ほどの場所にある。周辺は戸建て住宅が建ち並ぶ閑静な住宅地である。道路を隔て小道が続く雑木林があり、利用者の散歩コースとなっている。

**【地域資源を活用した支援】**  
地域との交流が頻繁に行われ、利用者が地域の一員として暮らせるように支援している。自治会では、盆踊りや餅つきなどに参加している。また事業所を子供会の資源物回収場所として提供している。敬老の日には保育園児の来訪があり、交流している。小学校や中学校生徒の体験学習のほか、高校の福祉科生徒の実習を受け入れており、実習生の入職につながっている。

大正琴、カラオケ、フラダンス、三味線などのボランティアグループが毎月来訪し、演奏や踊りを披露し、利用者と一緒に歌っている。調査当日も2ユニット合同で楽しんでいる様子が見られた。傾聴ボランティアが月1回来訪し、利用者全員の話に耳を傾けている。聴き取ったことを傾聴連絡ノートに書いてもらい、利用者の想いや意向の把握、支援に役立てている。

**【職員が一体となったケアマネジメント】**  
ケアプランは、毎月全職員が参加して行うケアカンファレンスにおいて、居室担当職員が作成したケアカンファレンス準備シートを基にモニタリングを行い、意見を出し合って暫定ケアプランを作成している。プランは、短期の施行期間を経て、計画作成担当者が試行結果から有効性を判断して確定している。見直しは、この過程を定期的に繰り返し、6か月または状況に応じて随時行っている。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	相模原ケアハートガーデン グループホームあじさい
ユニット名	花びら通り一丁目

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	相模原ケアハートガーデン グループホームあじさい
ユニット名	花びら通り二丁目

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念：一期一会 職員は理念を常に意識し、理念を基に日々カンファレンスで入居者様のケアを話し合い、健やかで快適に過ごせるように実践に努めている。	書家が揮毫した理念の「一期一会」を玄関に掲示している。入社時に理念と3つの約束を説明し周知を図っている。職員は、「人は皆、死に向かって行く」ということを忘れずに日々を楽しく過ごしてもらえよう、最高のおもてなしをすることを念頭に利用者を支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の盆踊り、近隣の小学校・保育園との交流を図っている。また、地域の方が月一回ボランティアで来訪し、カラオケや踊りを披露している。	自治会に加入し、地域の盆踊りや餅つきに参加し、子供会の資源回収に場所を提供している。保育園児の訪問、小学生や中学生の体験学習、高校の福祉科の実習生を受け入れている。大正琴、カラオケ、フラダンス、三味線、傾聴などのボランティアが定期的に来訪し利用者と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学校の体験学習では毎年小学校の先生、小学校2年生とその父兄が来所し、グループホームについての質疑応答が行われている。また、中学校の体験学習や津久井高校の研修施設となっており、利用者と折り紙、歌、体操等を体験している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催して、自治会長や民生委員及び地域包括支援センターの職員、ご利用者本人並びにご家族に参加して頂き、現在のサービス利用状況の報告を行い、サービス向上のために意見を伺っている。	運営推進会議は、2か月に1回開催している。参加メンバーは自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、家族、事業所職員などである。事業所の状況や行事、職員体制などの報告の後、自治会長からの直近の行事案内や地域包括支援センター職員からの認知症カフェの案内、介護保険制度変更の説明などを行っている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	何かあればいつも市担当者に相談しており良好な関係を保っている。	中央区高齢者相談課に、運営推進会議議事録や外部評価結果を郵送している。中央第2生活支援課職員が生活保護費受給者の面接に訪れた際に意見交換している。相模原市グループホーム連絡会にケアマネジャーが参加して情報交換している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関施錠は防犯上20時に施錠を行っている。身体拘束の研修は年1回ミーティングにて実施している。日頃から月一回ケースカンファレンスで話し合いをしている。	運営規程に身体拘束をしない介護を明記している。職員ミーティングの際に、資料を配布して研修をした。言葉による制止など、気になることがあるときは、管理者がその都度指導をしている。玄関は夜間を除き施錠していない。フロア入り口は1階は危険防止のために、家族に説明のうえ午後は施錠しているが、2階は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者やリーダーが日々、利用者の表情や体調に注意を払い、変わりなく穏やかに過ごされていることを確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加している。生活保護の入居者様の後見人手続き等、市の担当者と支援を行っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前に事前に説明を行い、締結まで書類をお渡しし確認頂き、不明な点についてはご納得頂けるまで十分な説明を行った上で契約を交わしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加時に発言が出来る様配慮している。介護計画書作成時に入居者や家族に意見・要望・苦情を吸い上げる様心掛けている。また、普段よりご家族とは何でも言い合える環境と信頼関係を得る様に努めています。	家族の意見や要望は、運営推進会議、年1回開催の家族会、家族の来訪時に聞いている。聞き取った内容は「困りごとノート」に記録して運営やサービス、ケアプラン作成に反映している。スタッフの顔と名前が分からないという意見に対応して、布製の名札をエプロンに付け、ユニットに名前付き顔写真を掲示した。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回のミーティングで意見交換が行われている。日頃から話しやすい環境作りを心掛けている。	ユニットごとのミーティングを、全職員が参加して毎月行っている。安全衛生委員会は職員が議題を決めて、毎月開催している。職員は会議で活発に意見や提案を出している。管理者は、年2回の個人面談で個々の目標設定と目標達成について話し合っている。行事の企画・運営について職員それぞれの発案を取り入れたり、似顔絵描きなど得意なことをやってもらっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与に関しては課長が査定を行っている。その他労務管理も常に課長が把握し、日頃から管理者は課長に職員の様子を伝え公平を期している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各自年間目標を設定している。外部研修は参加する機会が少なかったが外部研修に参加した職員に内部で研修する場を設けた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	相模原市内で行われている勉強会や、グループホーム管理者が集まり、様々な課題に対する意見交換を行っている。これらの事がグループホーム全体の向上に繋がるとの思いから、積極的に奨励、応援している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接・施設見学・事前面接等を通じて、ご本人の意見や要望等を聞く機会を設けている。更に入居後はホームに早く馴染める様、職員からの声掛けやご本人の希望に耳を傾ける事に気を配り、安心して生活して頂ける様に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回面接・施設見学・事前面接等を通じてご家族の要望等を聞く機会を設けている。ご家族来訪時には普段の様子をお伝えしながら話しやすい雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回面接等の相談時において、ご本人及びご家族の話を聞いた上で適切なサービスの選択が出来る様にし、必要に応じ他のサービスについての情報も提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者を中心に考え、ご本人の思いを感じ取れるよう努めている。入居者から話し掛けられた時は他の仕事していても手を止め耳を傾けて話を聞いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者とご家族がゆっくりと話が出来る様に、入居者の居室や和室で一緒に過ごせる様にしている。また、職員が普段の様子を説明し情報を共有出来る様努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣にお住まいのご家族が頻繁に面会に来られている。面会やご家族との外出は自由にして頂いている。また昔からのご友人も来訪される事もある。	職員の提案で、「個別支援」として、利用者の希望を聞いて仏壇に手を合わせるために一時帰宅することや、家族と一緒に音楽鑑賞に出かけることなどを支援している。携帯電話でメールをする利用者がある。海外滞在の家族とスカイプで話をする際に支援をしている。友人や知人が来訪した際は、居室に案内し、お茶を出してもてなしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご入居者同士が会話をしやすい様に食席についても配慮している。レクリエーションや行事等を通じて、ユニット間でも交流が図れるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了者に対しても、本人またはご家族から相談等があった場合は、必要な情報提供や相談に応じている。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者の意向や希望をケアプランに載せ、それに則って生活支援を行っている。困難な場合は御家族様に相談検討している。	入居時に、家族や利用者との面談し、その人の思いや暮らし方の希望、意向を聞き取ってアセスメントシートに記入し、内容を共有している。毎月訪れる傾聴ボランティアが利用者の話した内容を「傾聴ノート」に記録しており、職員はそれを確認して情報を共有している。把握した思いや意向を個別の外出支援や趣味の短歌の新聞投稿などにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族に昔の事等をお聞きし、ケアプランに組み込み、少しでも馴染みのある生活が送れる様心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者様の日々の様子をケース記録、24時間シート及び業務日報に記入し職員同士で共有している。		



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者が入居者様毎に状態や変化をまとめ、毎月のカンファレンス時にて職員間で話し合いをして実践し評価している。	職員はケアプランの実施状況を24時間生活変化シートに記録している。ケアについて気付いたことは「ご家族連絡帳」ならび「ご家族との連絡ノート」に記入して共有している。居室担当職員がモニタリングシートを作成し、全職員が参加するケアカンファレンスで検討し、仮のプランを立てて試行した後、計画作成担当者がケアプランを確定している。プランの見直しは通常6～9か月で、変化があれば随時行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様の日々の様子や変化等、ケース記録・業務日報・連絡ノートに記入し、職員同士で共有し、必要であればその場で話し合いをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	介護ベッド・車椅子は、ホーム内の用具を無償で使用して貰っている。要望に応じて他業者からの購入のお手伝いもしている。また、通院のサポートもしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	子供会の資源回収に協力し回収場所の提供している。ご入居者に牛乳パック切り、段ボール梱包の手伝いをして貰っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科の在宅訪問診療を月2回受診している。他にかかりつけ医がいる場合は、医師同士の連携が図れる様に配慮し、適切な医療が受けられるように援助を行っている。	協力医の往診は月2回である。訪問看護師は週1回来訪し、健康チェック等をしている。歯科医は必要に応じて往診をしている。精神科には、家族が付き添って通院しているが、家族の都合によってはスタッフが同行することもある。聞き取った診療情報は、往診ファイルに記録している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護師の訪問にて全員の健康チェックを受けると共に、日常の関わりの中で気付いた事等の相談をし、アドバイスを貰ったり必要によってかかりつけ医と連携を取って貰っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際には介護サマリーを提供し、医師からご家族への説明時に立ち会う等、病院側との情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の説明、何かあれば医師・ご家族・職員と話し合いの場を設けている。	医療連携体制加算の要件を満たす、「重度化した場合の対応に係わる指針」を契約時に説明している。家族の意向、医師の診断と支援、事業所の体制が整った場合に看取りを行う方針である。現在は、医師が家族から「終末期及び急変時の延命医療に関する同意書」をもらっている。看護師であるケアマネジャーが緊急対応について、伝達研修を実施した。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生やAEDの使用法等の救急対応についての研修を行っている。事故発生時の救急対応についてもマニュアルにて全職員が理解している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行っている。消防署の方も参加して頂き、助言を受けている。また、災害時には近隣の職員への連絡が取れるような体制を取っている。	防災訓練を年2回実施している。内1回は、消防署員の立ち会いの下、夜間想定訓練を実施している。夜間の災害時に5分以内に駆けつけられる職員が3人ほどいる。防災用具の揃ったリュックサックやヘルメットがユニットごとに準備されている。災害備蓄は、3日分ほどの飲料水と米、カセットコンロなどがある。家具類には、転倒防止棒が設置されている。	災害備蓄は、飲料水、主食や副食など職員の分も含めて3日分以上を確保し、在庫や消費期限等を適切に管理するなどして回転備蓄することを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人話し掛ける時は敬語で話す様にしている。認知症である入居者様には安心して過ごして頂けるような声掛けをしている。	職員は入職時に個人情報保護の説明を受け、個人情報保護に関する誓約書を提出している。トイレ誘導や入浴時の着替えの際は、羞恥心に配慮している。リビングにある個人に関する記録類は、利用者等から離れた場所で使用し、収納棚に入れている。個人情報に関わる書類は、鍵のかかる書棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望や意見等を聞いて叶えられる様支援している。希望が言えない方も選択肢を与えて自己決定し易い様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	無理な声掛けはせず、一人一人体調や状況に合わせてご本人のペースで支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	女性は人によってお化粧をされている。男性は髭が伸びていたら声掛けをして髭剃の手伝いしている。一人一人その人らしいオシャレや身なりに気を配り支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人好みの味を把握し、美味しく食べて頂ける様調理に工夫している。季節や行事の物を取り入れ目で楽しんで頂いたり、お好みメニューとして入居者の食べたい物を聞き一緒に料理をする事もある。	朝食、夕食は業者から調理済みの冷凍食品が届き、昼食はメニュー付きの食材が配達され、職員が調理している。利用者の状況に合わせて食形態を変更している。利用者は調理、盛り付け、配膳、下膳などできることを手伝っている。職員は、同席して同じものを食べ、見守りや介助をしている。花見の帰りに外食したり、職員ミーティングの時には出前を取っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量は毎食時にチェックしている。水分量もその都度確認している。入居者に合った量を提供し、苦手な物は工夫して調理し、バランスを取っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを行っている。入居者の状態を見て歯間ブラシやスポンジを使用している。舌の汚れや歯茎の腫れ等も異変がないかチェックし、異変があれば訪問歯科に報告している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を確認しながら、尿意や便意のない方は声掛けをして誘導している。	トイレは、ユニットごとに3か所あり、分かりやすい表示がある。1か所は車椅子対応である。職員が朝・夜に清掃し、床は消毒液で拭いている。排泄チェック表を参考にして、利用者の様子を見てさりげなく誘導している。きめ細かい支援により失禁を極力防いでいる。夜間の起き上がりはセンサーが感知して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表に便が出た時間と何日出ていないかを記入している。一人ひとりの排便パターンを考慮し、起床時の牛乳やヨーグルトを摂取し、毎日ラジオ体操も行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回の入浴を提供している。ご本人の様子を見て午前午後等分ける様にしている。立位や歩行が難しい方でも二人介助にて浴槽に浸かって頂き楽しんで頂いている。また、自立で入る方は好きな時に入っている。	入浴は原則として、冬は週2回、夏は週3回実施しているが、回数や時間は柔軟に対応している。車椅子の利用者も2人介助で浴槽でくつろいでもらっている。入浴に恐怖感を持つ利用者などは、シャワー浴と足浴で対応している。浴槽の湯は、1人毎に交換している。季節の柚子湯、しょうぶ湯や入浴剤を使用している。ヒートショック対策もしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の意思を尊重し、眠たいと訴えがあった時や、フロアで傾眠している時は居室へ誘導し休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	クリニックとの連携をしっかりと取り、内服薬等で分からない事があった際は確認をし、間違いなく服薬出来るように支援している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きや洗濯たたみ等、入居者様が出来る事は行って頂いている。また、趣味のオセロや音楽等を楽しんで頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事や個別支援にて入居者様の希望を聞き、計画策定・実施している。毎年入居者様の希望を聞きながら行事計画を策定している。	天候が許すかぎり、事業所の近くの雑木林などを散歩している。自宅、音楽鑑賞、カラオケボックスに出かけるなどの個別支援をしている。初詣、花見、鯉のぼり見物、小学校の運動会見物のほか、ミニバスハイクでショッピングセンターやイルミネーション見物のドライブにも出かけている。外出の帰りには外食を楽しんでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭は所持しない事になっており、ご本人・ご家族にもお伝えしている。希望がある際はその都度相談し臨機応変に対応している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望に沿ってご家族と連携を取って対応している。携帯電話でやり取りしている利用者様もいる。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日フロア内の清掃を行っている。空調等も温度計・湿度計を見ながら快適に過ごせる様になっている。また、季節感が出るように壁紙作りをしている。	共用空間は、全体に広々としてバリアフリー構造で床暖房が設置され、窓からの採光が良く明るい。リビングの横にある小上がりの和室は多目的に利用されている。隣接したオープンキッチンには、職員が調理しながら利用者の見守りができる。壁には利用者の習字や短歌の作品、手づくりの大きなカレンダー、行事の写真、季節の折り紙、生花などが飾られ季節感のある空間である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う・気の合わない入居者様もいるので、職員で話し合っ、皆様が快適に過ごせるようにフロアの席は決めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が安心して生活出来る様にご本人・ご家族と相談した上でレイアウトを行っている。	居室は、空調設備、照明器具、収納設備が設置されている。利用者は、ベッド、防災カーテン、チェスト、家族や本人の写真、テレビ、人形など馴染みのものを持ち込んで居心地良くしつらえている。清掃は、職員が毎日部屋ずつ行っているが、汚れがあればその都度対応している。居室毎に利用者の氏名が大きく表示されており分かりやすい。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室等での案内や表示は大きく分かりやすい文字で掲示している。安全衛生委員会を設けているので定期的に巡視を受けている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 相模原ケアハートガーデン  
グループホームあじさい

作成日 2017年6月23日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	13	職員一人ひとりの力量を把握し外部研修や内部研修を行い、職員のスキルアップを図る。	やりがいのある職場になり、自主的に動き、ミーティングで活発な意見交換ができる。	社内研修やかながわ福祉サービス振興会等の外部研修の機会を設ける。かかりつけ医療関係の研修も設ける。	12ヶ月
2	25	ケアプランを記録に反映させケースカンファレンス前の準備シートを追加し、アセスメントを充実する。	本人本意のケアができ介護の質の維持、向上ができる。	リーダー、サブリーダーの指導、教育をする。ミーティング、リーダー会議で説明し情報共有する。	12ヶ月
3	12 14	日々満室になるように他施設と交流、情報交換を図る。近隣の営業が不足している。	職員が向上心を持って働け、職場環境、条件の整備ができる。	外部連絡会、研修に参加、他施設の方と交流を図る。定期的に近隣の営業を行う。	12ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。